



### ( 3 ) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

計画については、すでに用地取得が完了し、4.6kmの全区間供用(一部暫定)しており、経済性、効率性の観点からも現計画は妥当と考えられます。また、向原地区につきましても、用地取得率は約90%となっており、効率性・経済性の観点からも現計画は妥当と考えております。

なお、工事施工にあたっては、折れ線鋼桁、耐候性鋼材及び反力分散支承の採用により、コスト縮減を図ってきました。また、今後の施工につきましても、コスト縮減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用導入等を行い、コスト縮減を図っていきます。

### ( 4 ) 対応方針

当事業は継続が妥当と考え、向原地区については、平成18年度の暫定供用を目途に、用地取得及び工事を促進します。また、谷峨地区及び瀬戸地区については、周辺道路の整備状況や交通状況を鑑みて4車線化の適切な整備時期について検討を行っていきます。

### ( 5 ) 他事業への反映

地域における交通特性を考慮した事業の整備順序を決定し、順次供用を図り、整備効果の早期発現を図ることが重要です。